

校内研究情報

帯広市立啓北小学校

NO.2 令和4年5月24日(火)

研修部

テーマ「提案授業を終えて」

授者：5年1組

道徳：5年「遠足の子どもたち」(A 主として自分自身に関すること)

道徳部会では、5月16日(月)の2時間目に、5年生に授業を公開していただきました。今回は「自由と責任」が主題でした。登場人物が遠足に行く小学生を電車内で見かけた場面を通して考えました。小学生なら騒がしいという偏見をもって登場人物が、自由に楽しみながら周りに迷惑をかけずに静かに過ごす小学生の姿に驚き、気持ちが変わっていく内容でした。「自由と自分勝手はどう違うのか。」「自由に過ごすために大切なことはどんなことか。」などについて、インタビューの手法を取り入れながら、本時のねらいに迫っていく1時間となりました。

研究の柱Ⅰ 見通しと振り返りの工夫

内容①-1 「つかむ」場面の工夫 ～ICTの活用～

本時「つかむ」の部分では、教材の場面を想起できるように、クロームブックによる資料を提示していました。場面の共有化を図り、より全体で学ぶ雰囲気が高まっているように感じました。児童の身近なところに主題があると実感できる工夫がなされていました。また、最初の発問を画面に提示し、より主題に向き合う土台を構築できるよう配慮されていました。



- [事後研より]
- ・興味や考えのきっかけづくりになった
 - ・効果的にテレビを用いていた
 - ・どっちの場面なのだろうなど、二者択一の場面があっても面白い

内容①-2 「つながる」場面の工夫 ～まとめ(振り返り)のポイント～

本時「つながる」の部分では、学習を振り返りました。まとめ(振り返り)のポイントシートに書かれた項目をもとに、児童に振り返らせました。



- [事後研より]
- ・自分たちの日常に即した課題が貫かれていた
 - ・まとめのポイント(道徳バージョン)があってもいい
 - ・定着するまではあってもよいかもわからないが、縛られず自由に書く方もよい。
 - ・ふりかえりの記述としては、「自由とは何か改めて考えた。」という意見や、「小学生って迷惑っておもわれてしまうことに気をつけなくてはと思った。」(授業の導入に立ち返って考えていた)という意見があった。

研究の柱Ⅱ 話す視点・聞く視点の明確化

内容②本音を引き出すための手立て ～インタビュー形式での交流～

本時「ふかめる」の部分では、教材から離れて、児童が自分事として主題に向き合えるよう、インタビュー形式での交流が行われました。「みなさんはどうですか。休み時間のことを考えてみよう」と児童に投げかけ、5名の児童に自分の考えを聞きました。お絵描きをして過ごす人、読書をして過ごす人、タブレット端末を使って過ごす人、体育館で遊ぶ人、外に行って遊ぶ人、それぞれの立場で大江先生からの質問にその場ですぐに答えを考えて話しました。ただ質問するだけではなく、さらに児童に問い返ししながら、本音に迫っていきました。



- [事後研より]
- ・問い返しに即興性をもたせられる
 - ・自分事として、考えながら話を聞き、補足していた
 - ・いろいろな場面を想定しておくとい
 - ・自分勝手な〇〇といった比べるものがわかりやすかった

研究の柱Ⅲ 個の学びの充実

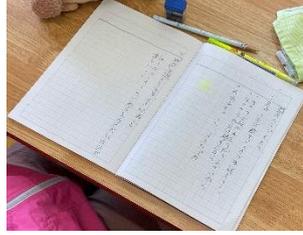
内容③ 自己を見つめる場の設定 ～中心発問を通して～

本時「ふかめる」の部分において、「自由に過ごすために大切なことは何だろう」と中心発問を児童に投げかけました。

児童が書いたノートの記述からは、

- ・ルールの上でめいわくをかけないで、自分が楽しく過ごす
- ・場所や時間が大切
- ・人それぞれの楽しさを大切にしてい
- ・相手を気遣うことが大切

などと書いてあり、主題を自分のこととして考えている様子が伺えました。



[事後研より]

- ・黒板のキーワードが残っていて、子どもたちが自由と自分勝手に判断する基準になった
- ・少し正解への答えへの導きが強い場面もあった

帯広市教育委員会 K 指導主事より

①校内研究について

- ・見通しをもつ振り返りの場の工夫（資質能力、子供とともに共有、単元ガイダンスシート）
- ・振り返りの場（思考の深まり、再構築、一定の長さで言語化）
- ・考えの変容をみとる
- ・まとめシート→まとめ・ふりかえり共有を！

②考えを伝え合う場の工夫

- ・明確な視点（分類・比較・関連付け）
- ・教師がやるべきことは（必然性のある課題、内容に応じたグループサイズのかふう、人間関係性の構築）

③資質能力を活用発揮する場の工夫

- ・毎時間の学びにつなげる
- ・目指す姿を明確に（啓北モデル、学年ごとの到達度の設定など）

帯広教育委員会 T 指導主事より

①校内研究の視点と本時の授業について（聞く視点を意識させる）

- ・話し合いの工夫（人数は？ 何を話す？ なんのために？など）

②本時のねらいと関連性

- ・振り返りの例を示す（自分の経験をもとに書こう 考え方の変化を書こう 他の人の考えにふれて書こうなど）

③ICT の活用も大切

十勝教育局 M 指導主事より

①一年単位で担任が変わる現状をふまえて（一年のゴールは学校教育目標という心がけも）

②年間を見通した計画

（どうこの授業が関わっているか 課題意識をもって授業づくり 学習過程のイメージをしっかりと）

図書室には道徳授業につかえる本がたくさんかかれています。今回紹介するのは、心にひびくマンガの名言です。マンガからたくさんの元気や勇気、やる気をもたらした人もいるのではないのでしょうか。その中から学習に関する名言を探し、授業の終末に提示し、子どもたちに伝えるのも一つの手法かなと思います。